

# 発心門王子から「学びウォーク」

下里小  
児童 世界遺産への理解深める

県世界遺産協議会が主催する「次世代育成課外授業支援」事業で那智勝浦町立下里小学校の5・6年生38人が8日、田辺市本宮町の熊野古道・中辺路ルートを歩き、世界遺産登録の「紀伊山地の

霊場と参詣道」について理解を深めた。

貸し切りバスで来た一行は午前10時30分に「発心門王子」に到着。県世界遺産マスター3人のガイドを受けながら、「水呑王子」から伏拝、三軒

茶屋、熊野本宮大社へと向かった。

同マスターの詳しい説明を聞いて約7キロの熊野古道を歩いた児童たちは、およそ4時間後に本宮行政局内にある県世界遺産センターへ。展示スペースを見学し、また発心門王子から熊野本宮大社間を歩いた「学びウォーク」の感想などまとめ

この事業は、登録資産を確実に保存しながら次世代に継承していくため、歴史上また学術上極めて高い価値のある世界遺産を現地ウォークなど通じて学習してもらうことが目的。今回の「学びウォーク」では、



下里小学校と白浜第二小学校が参加した。

「発心門王子」を出発する児童たち